

太田市自分ごと化会議 2022 からの提案書 (付録)

太田市自分ごと化会議 2022
令和 5 年 3 月

< 目 次 >

付録.....	- 2 -
1 アンケート結果.....	- 2 -
(1)事前アンケート結果.....	- 2 -
(2)第1回会議参加者アンケート結果.....	- 3 -
(3)第2回会議参加者アンケート結果.....	- 6 -
(4)第3回会議参加者アンケート結果.....	- 7 -
(5)第4回会議参加者アンケート結果.....	- 9 -
2 各回の主な議論.....	- 15 -
(1)第1回会議.....	- 15 -
(2)第2回会議.....	- 16 -
(3)第3回会議.....	- 18 -
(4)第4回会議.....	- 21 -

付録

1 アンケート結果

自分ごと化会議委員決定後～第4回会議にて実施した参加委員を対象としたアンケートの集計結果は以下のとおりです。

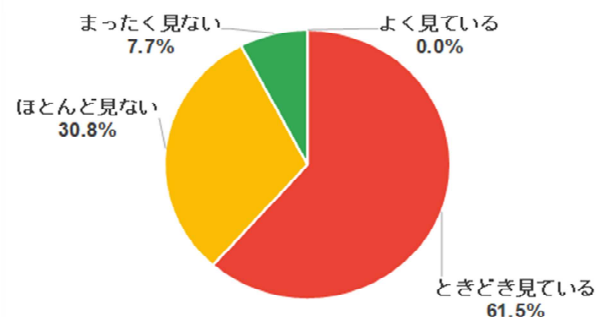
(1) 事前アンケート結果

※第1回会議の前に、事前に委員に対して実施したアンケートです。

回答結果：対象者 17人 回答者 13人(回答率 76.5%)

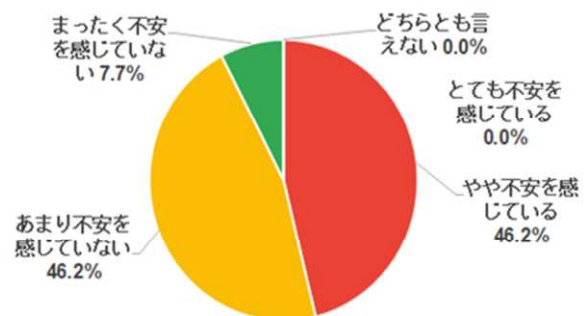
Q1 太田市の情報を広報やインターネットなどで日頃から見ていますか。

回答	件数	割合
よく見ている	0	0.0%
ときどき見ている	8	61.5%
ほとんど見ない	4	30.8%
まったく見ない	1	7.7%
合計	13	



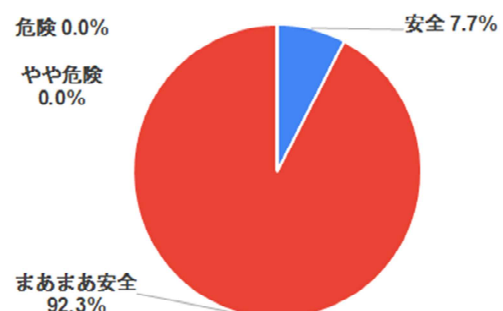
Q2 あなたは自然災害に対して不安を感じていますか。

回答	件数	割合
とても不安を感じている	0	0.0%
やや不安を感じている	6	46.2%
あまり不安を感じていない	6	46.2%
まったく不安を感じていない	1	7.7%
どちらとも言えない	0	0.0%
合計	13	



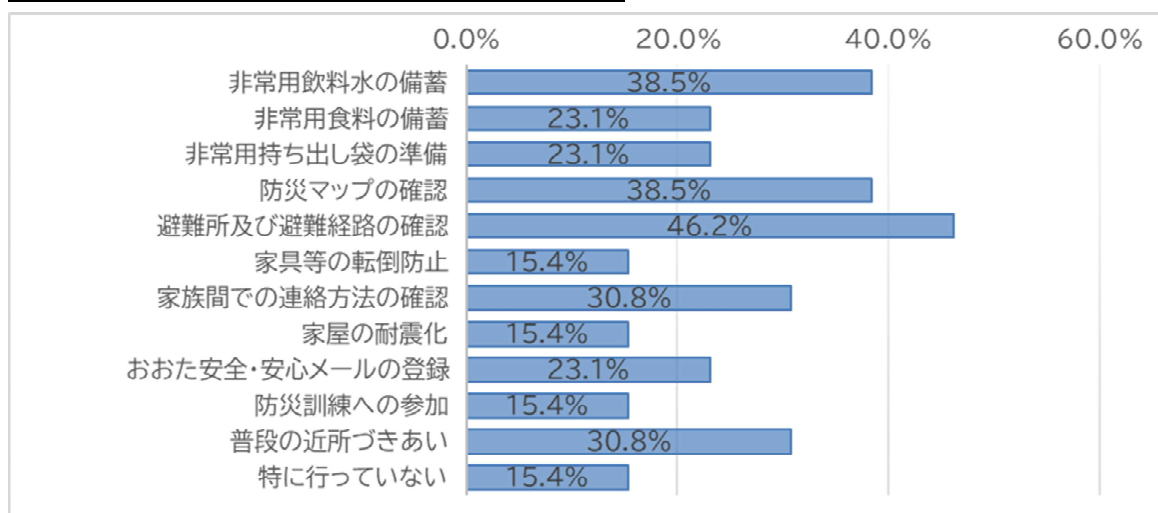
Q3 太田市は災害に対して安全だと感じていますか。それとも危険だと感じていますか。

回答	件数	割合
安全	1	7.7%
まあまあ安全	12	92.3%
やや危険	0	0.0%
危険	0	0.0%
合計	13	



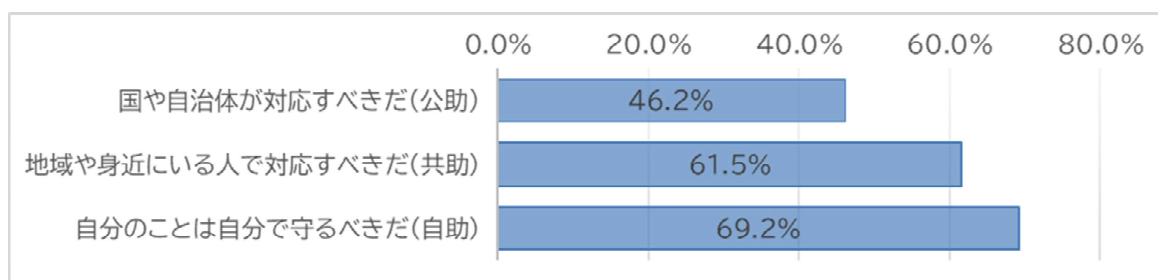
Q4 あなたの家庭で行っている防災対策は何ですか。(複数選択可)

回答	件数	割合
非常用飲料水の備蓄	5	38.5%
非常用食料の備蓄	3	23.1%
非常用持ち出し袋の準備	3	23.1%
防災マップの確認	5	38.5%
避難所及び避難経路の確認	6	46.2%
家具等の転倒防止	2	15.4%
家族間での連絡方法の確認	4	30.8%
家屋の耐震化	2	15.4%
おおた安全・安心メールの登録	3	23.1%
防災訓練への参加	2	15.4%
普段の近所づきあい	4	30.8%
特に行っていない	2	15.4%



Q5 災害対応時にとるべき行動としてあなたの気持ちに合うものを教えてください。(複数選択可)

回答	件数	割合
国や自治体が対応すべきだ(公助)	6	46.2%
地域や身近にいる人で対応すべきだ(共助)	8	61.5%
自分のことは自分で守るべきだ(自助)	9	69.2%



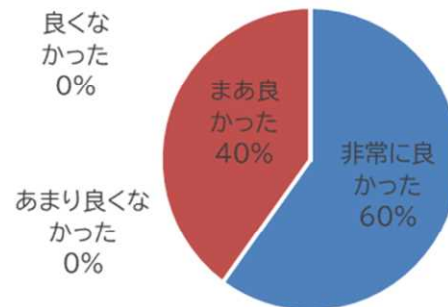
(2)第1回会議参加者アンケート結果

令和4年11月19日実施分

回答結果：参加者 12 人 回答者 10人(回答率 83.3%)

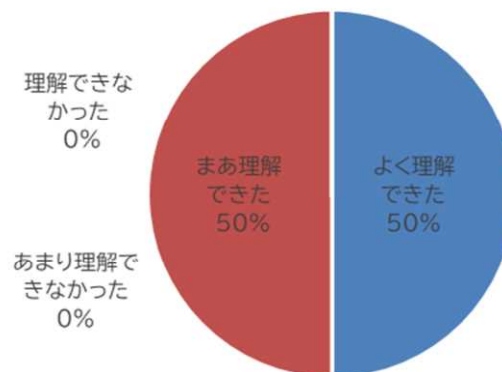
Q1 自分ごと化会議に参加してみてもいいか。

回答	件数	割合
非常に良かった	6	60%
まあ良かった	4	40%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
合計	10	



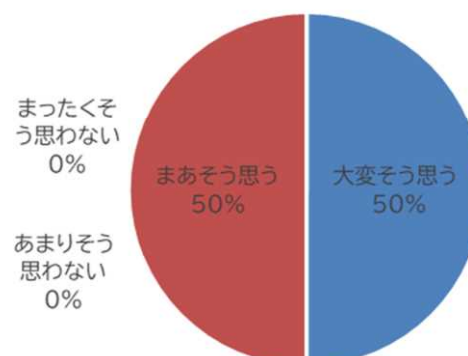
Q2 危機管理室の概要説明は理解しやすかったですか。

回答	件数	割合
よく理解できた	5	50%
まあ理解できた	5	50%
あまり理解できなかった	0	0%
理解できなかった	0	0%
合計	10	



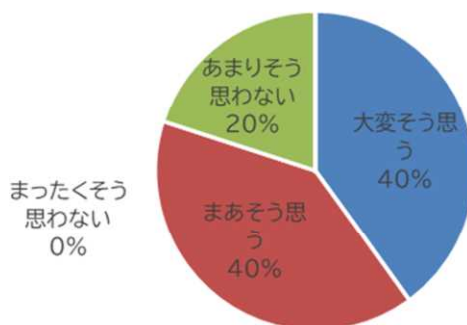
Q3 対話において安心して話せる雰囲気でしたか。

回答	件数	割合
大変そう思う	5	50%
まあそう思う	5	50%
あまりそう思わない	0	0%
まったくそう思わない	0	0%
合計	10	



Q4 対話において自分の意見を言えましたか。

回答	件数	割合
大変そう思う	4	40%
まあそう思う	4	40%
あまりそう思わない	2	20%
まったくそう思わない	0	0%
合計	10	



Q5 防災における自助・共助であなたが課題だと思ったことを教えてください。

- 防災について興味を持つ事がとても大切かと思いました。
- 普段から、近所の方ともコミュニケーションを取る事も大事だと改めて思いました。
- 地域における防災訓練等を行うことにより、周りの人との繋がりを密にすること。
- 色々な考えがあり、全てに対応する事は難しいと思った。出来ている事や出来ない事を明確にし、適正な情報発信が必要と思う。
- 情報が得られない外国籍の人たちへの情報の届け方
- 事前の備えや準備、想定される事を把握しておくなど
- 高齢者の避難
- 近所や地域の関わりをもっておくことが課題であると考え。
- 環境の対応と多様性の克服—自分が自分を守る体力を作る毎日の生活が基本と理解

Q6 参加して気になったことや改善して欲しいこと、取り上げて欲しい課題など自由にご意見をお書きください。

- 年齢が下の方は、発言しにくそう。工夫が必要。
- 太田市の中で取り組んでいる防災の中で、市民に知ってもらいたい事を教えてください。
- 危険区域の周知徹底又避難訓練が必要か？実際の行動が深い理解を得られるかもしれません。
- どの地域でも、隣近所の付き合いが、特にコロナ禍で薄くなってきている。この状態で災害が起きた場合に、避難所での対応も難しくなってくる。また、外出していたとき災害が起こったらどうしたら良いのか？改めて考えさせられます。

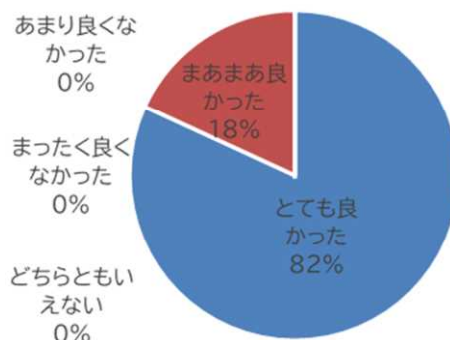
(3)第2回会議参加者アンケート結果

令和4年12月11日実施分

回答結果：参加者 12 人 回答者 11 人(回答率 91.7%)

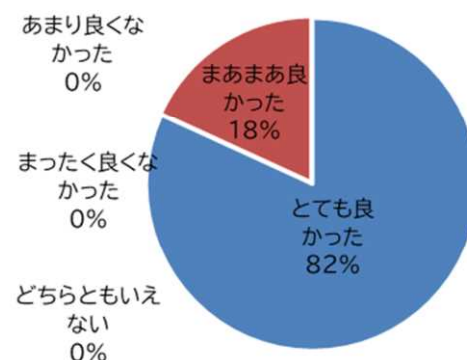
Q1 第2回自分ごと化会議に参加されていかがでしたか。

回答	件数	割合
とても良かった	9	82%
まあまあ良かった	2	18%
あまり良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
どちらともいえない	0	0%
合計	11	



Q2 少人数グループでの話し合いはいかがでしたか。

回答	件数	割合
とても良かった	9	82%
まあまあ良かった	2	18%
あまり良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
どちらともいえない	0	0%
合計	11	



Q3 次回以降に向けての要望や今日の感想など、ご自由に記入してください。

- 今回参加させて頂き、防災に対しての認識が少し深まった気がしました。
- 外国の方とのグループで大変貴重な時間を過ごさせて頂きました。とても楽しかったです。ありがとうございました！課題からの手段→成果という考え方が色々な問題に役立つと思いました。また次回も楽しみにしております！
- 全て役に立ちました。次回も楽しみにしています。公の努力が伝わってなかった、自分ごとで知った、これを近隣に伝えたいと思う。自分ごと化は大変に役立ち良かったです。いかなる媒体よりも大変だろうが伝わった自分ごと化でした。ありがとうございました。
- 少人数での話し合いは良かったと思います。意見を言いづらい人も声を出せる場になるのかもしれませんが、内容にもよるのでしょうか、この方法が良いと思いますが、地区の近い方でのグループも話し合いがしやすいと思います。
- 事前ワークシートがあったので、進めやすかったです。
- 若い方と同じ話題を共有できて、大変有意義な一日でした。
- 防災に関して考えるきっかけになりました。

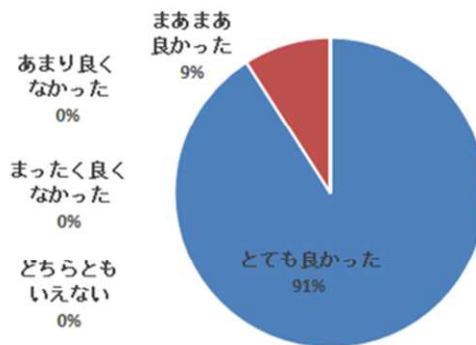
(4)第3回会議参加者アンケート結果

令和5年1月21日実施分

回答結果：参加者 12 人 回答者 11 人(回答率 91.7%)

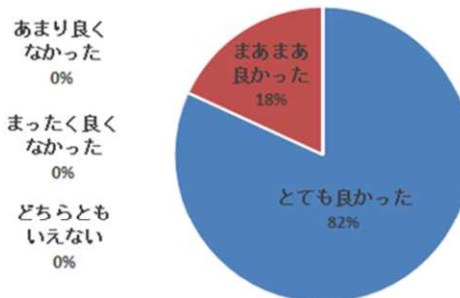
Q1 第3回自分ごと化会議に参加されていたかでしたか。

回答	件数	割合
とても良かった	10	91%
まあまあ良かった	1	9%
あまり良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
どちらともいえない	0	0%
合計	11	



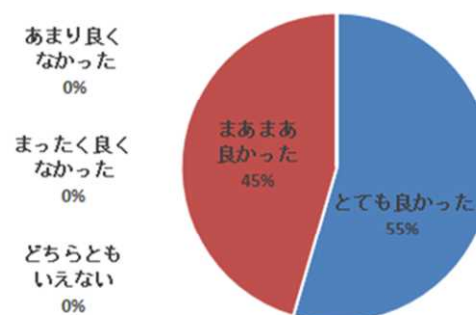
Q2 少人数グループでの話し合いはいかがでしたか。

回答	件数	割合
とても良かった	9	82%
まあまあ良かった	2	18%
あまり良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
どちらともいえない	0	0%
合計	11	



Q3 ナビゲーターが参加した話し合いはいかがでしたか。

回答	件数	割合
とても良かった	6	55%
まあまあ良かった	5	45%
あまり良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
どちらともいえない	0	0%
合計	11	



Q4 次回以降に向けての要望や今日の感想など、ご自由に記入してください。

- 仕事内容が同じ人とグループになったため、気になる内容に共通のものがあ話し合いが有意義でした。
- 事前ワークと違って戸惑ってしまった。NHK、群馬テレビ等で防災の時間を作り、例えば雨の降り方、10mm～20mm の映像等を放映し実際に目で見て体験する。ビデオ録画を勧め広報で案内する、または市のサイトで確認できるようにする。
- 2 回目が仕事都合で参加できず、すみませんでした。まだ知らないことを知れて充実した時間となりました。「ナッジ」は私生活でも仕事でも活用できますね。防災について、改めて家族と共有したいと思います。
- 特にありません。楽しくできました。
- 土曜日ではなくて、日曜日が良いと思います。土曜日だと学校や模試などがあり、参加しづらいです。オンラインで参加できると嬉しいです！
- 私たちは細かいことが苦手ですが、この会議では細かいところまで話ができ、それは安全につながるのではないかと感じました。
- 特にナッジについて知ることができて良かったです。ナッジの原則(EAST)はものの見方に変化をもたらすのではないかと思います。活用できるような気がします。していきたいと思います。
- 防災マニュアルの活用法について、色々な意見が聞けて為になります。その他、ナビゲーターの植竹さんからナッジという新しい言葉を教えていただけて勉強になりました。また、親子防災手帳の存在など具体的な取組を知り、関心を持ちました。(安心安全カードなど)
- 良い話がたくさん聞けて良かったです。色々考えさせられました。
- 皆さんの意見が聞けて良かったです。次回もよろしくお願いします。

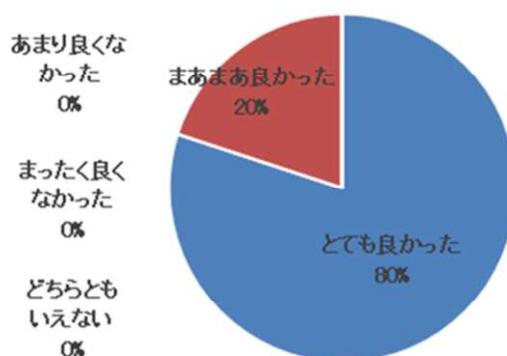
(5)第4回会議参加者アンケート結果

令和5年3月18日実施分

回答結果：参加者 10 人 回答者 10 人(回答率 100%)

Q1 第4回太田市自分ごと化会議に参加してみていかがでしたか。

回答	件数	割合
とても良かった	8	80%
まあまあ良かった	2	20%
あまり良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
どちらともいえない	0	0%
合計	10	



▼回答の理由

とても良かった

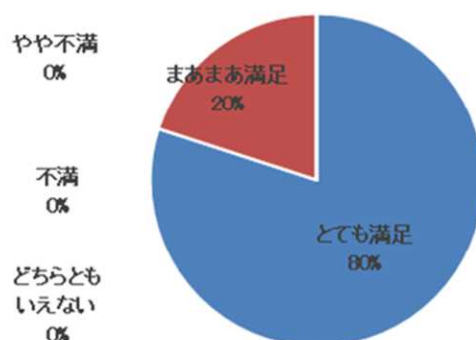
- 今回はグループワークではなく、全員に発言権があり、しっかりとした討論ができたと感じたため。
- 他人事が、自分ごと化したのがとても良かった。
- 防災についての意識がとても上がった。
- 防災についてより深く考えるきっかけになった。色々な方々の意見や経験が聞け参考になりました。

まあまあ良かった

- 防災に関して意識が変わったから。

Q2 今回の太田市自分ごと化会議 2022 全体を通じての満足度を教えてください。

回答	件数	割合
とても満足	8	80%
まあまあ満足	2	20%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
どちらともいえない	0	0%
合計	10	



▼回答の理由

とても満足

- 参加したことで自分なりに色々調べることにより、防災について、また地域のことを知ることができた。年齢層の違う方の意見が聞けた。新聞等を読む際、防災の記事を詳しく読むようになった。高澤コーディネーターのわかりやすい説明がとても良かった。行政の現状の取組がよく分かった。
- 「防災」のこと、「太田市」のこと、両方を知ることができたので。
- 防災減災への未対応により安心安全に不満が湧いた。課題ができたことに満足。
- 色々なことを学ばせていただきました。自分の活動の視野を広げることができました。
- 防災マニュアルの存在や、内容の改定など、色々な意見交換ができて楽しかったしとても勉強になりました。外国の方の意見を聞けて貴重な時間を持てました。

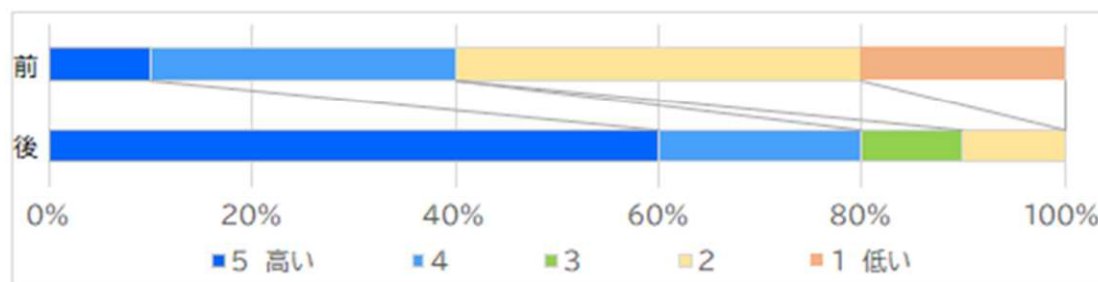
まあまあ満足

- いろんな意見が聞けたから。

Q3 太田市自分ごと化会議 2022 に参加した前後で、あなたの行政や議会への関心度、災害に対する危機意識、防災に向けた具体的な行動について変化はありましたか。

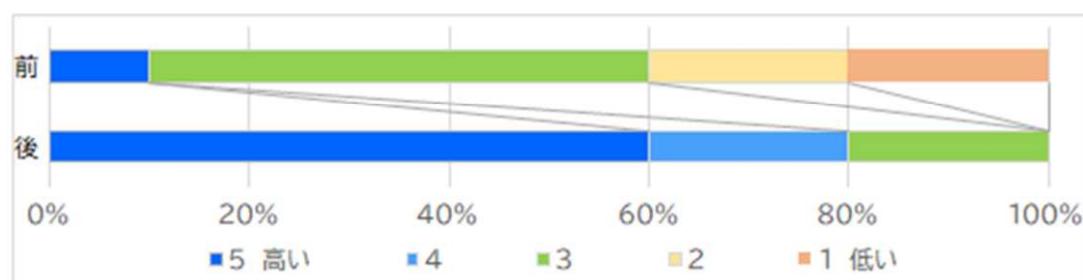
(1)行政や議会の情報への関心度(広報紙・HP や議会の傍聴等)

	5 高い	4	3	2	1 低い
参加前	1	3	0	4	2
参加後	6	2	1	1	0



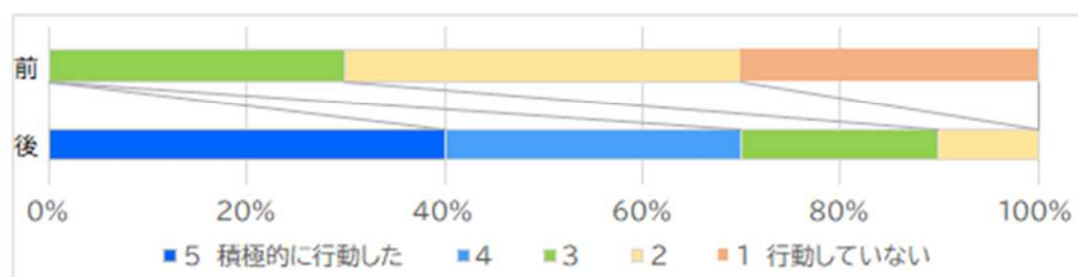
(2)災害に対する危機意識

	5 高い	4	3	2	1 低い
参加前	1	0	5	2	2
参加後	6	2	2	0	0



(3)防災に向けた具体的な行動(災害備蓄を見直した、家族で話をした等)

	5 積極的に行動した	4	3	2	1 行動していない
参加前	0	0	3	4	3
参加後	4	3	2	1	0

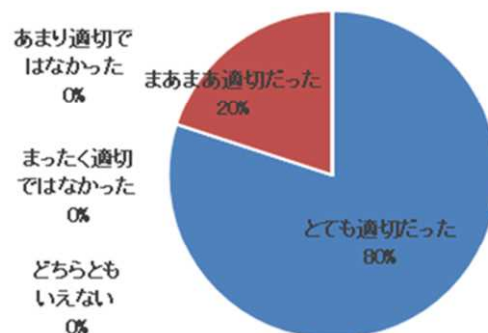


Q4 質問3以外に、自分ごと化会議に参加して意識や行動の変化があったことなどがあれば教えてください。

- 危なそうな所を見るようになった。
- 地域コミュニケーションを図ることが多くなった。
- ナッジについて興味を持ちました。
- 問題が非常に多く、対策の優先順位は弱者から。小さな子供対策。
- ここに参加することで関心は高まっていたが、トルコの地震でさらに考えるようになった。
- 物の見方が変わった。
- 街中の建物や道路などに目が向くようになった。自分の家の中や外など、もしもを考えるきっかけになった。
- 水やパックのご飯などを準備するようになった。

Q5 テーマ「防災」は、自分ごと化会議で扱うテーマとして適切でしたか。

回答	件数	割合
とても適切だった	8	80%
まあまあ適切だった	2	20%
あまり適切ではなかった	0	0%
まったく適切ではなかった	0	0%
どちらともいえない	0	0%
合計	10	



▼回答の理由

とても適切だった

- 異常気象が続いており、地震も最近多い。また北朝鮮のミサイルはどうなのか？
- いつどんな災害が起きるか分からないのが今の時代と感じていたため。
- 誰にでも起こる問題の一番のものだから。
- 防災について、日頃から備えることが無かったので、具体的に問題と向き合う機会ができたと思う。

まあまあ良かった

- 基本的に防災は関心のない人の多いイメージがあるので、考えさせられるきっかけになった。

Q6 今後、自分ごと化会議で扱うテーマはどんなものが適していると思いますか。

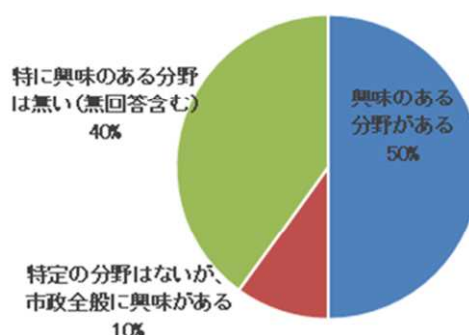
- ☐ 教育
- ☐ 介護
- ☐ コミュニケーション
- ☐ 生活しやすい街とは？(安全安心をテーマに)
- ☐ SDGs(ジェンダー社会)
- ☐ みんなが住みやすい街づくり

Q7 太田市をより良くするために特に重要と思う主体をお答えください。(複数選択可)

住民 1 人ひとり	地域の自治会、その他のコミュニティ等	市役所等の行政機関
6 件	7 件	2 件
市議会等の政治機関	民間企業、NPO 等	その他
0 件	0 件	0 件

Q8 現在、市の取組やまちづくりに関する活動など興味のある分野はありますか。

回答	件数	割合
興味のある分野がある	5	50%
特定の分野はないが、市政全般に興味がある	1	10%
特に興味のある分野はない (無回答含む)	4	40%
合計	10	



興味のある分野

- ☐ ごみ(生ごみ、粗大ごみ、リサイクル)、生ごみのリサイクル(ごみから資源へ)
- ☐ 道路の白線
- ☐ 教育
- ☐ 生活道路の確保と整備。国道 407 号のガードレール(スバル町)。
- ☐ 子ども食堂

Q9 その他、全体を通じた感想やコメントを自由にご記入ください。

- いろんな人の意見が聞けて勉強になった。
- 人前で話すことが好きではなかったが、今回の会議を通じて少しずつだが話すようになった。人の意見を聞くようになった。(世間が少し広くなった。)外国の方との接し方を考えさせられた。
- コーディネーターの高澤さんのトーク、何か質問があった時の危機管理室の誠実さに感動しました。
- 問題を自分ごと化して解決に努める。ニッチ対策を。
- 最後の会議で参加人数が少なくなってきて少し寂しいと思いました。コーディネーターの高澤さんのおかげで楽しく勉強できました！ありがとうございました。
- なかなか意識して考えることのなかった防災について身近に考え、「もしも…」「いざ…」という時に行動がとれるように日頃から考え行動していきたいと思いました。

2 各回の主な議論

(1)第1回会議

日 時		2022年11月19日(土)13時～16時 (時間は、2～4回会議も同様)
場 所		太田市役所本庁舎3階会議室(2～4回会議も同様)
出席者	委 員	参加者数12名 欠席者数5名
	太 田 市	清水聖義市長 企画政策課:課長補佐 川田智、主任 和田良 危機管理室:室長 茂木房士、係長代理 河野憲嗣、主任 金子将紀、主事 青山航大
	構 想 日 本	構想日本代表:加藤秀樹 コーディネーター:高澤良英(特別研究員) 補助スタッフ:清水真穂(特別研究員)
司 会 進 行		企画政策課:課長補佐 川田智
テーマ説明		危機管理室:主任 金子将紀
主 な 議 論		開催挨拶、会議の概要説明の後、防災についての疑問なこと、心配なこと、自分が取り組んでいることについて意見交換をしました。 ■防災についての疑問なこと 【以下、委員と市との意見交換の内容(抜粋)】 委員 令和元年東日本台風の時どんな被害があったのか？ 市 市内の4つの河川に5回、土砂災害警戒区域に2回、現在の基準のレベル 4「避難指示」を発令。最終的な避難者は約 2,500 人。床上浸水が約 150 棟、床下浸水も約 180 棟程。ここ数年で太田市が避難情報を出したのはこの時が2回目。 委員 避難情報はどのような手段で市民に伝えられるのか？ 市 市からのメールや HP、テレビのデータ放送やラジオなどで伝えている。市の LINE もあり、友達登録してもらうと災害情報の通知が届く。是非登録をお願いしたい。twitter でも発信している。 委員 ペットの避難はどうしたらよいか？避難所に連れていけるのか？ 市 衛生面の問題などで、人と一緒にのスペースには避難できない。避難所敷地内の一部にペットだけの避難場所を用意する「同行避難」になる。避難所には様々な方が来るので、飼い主と一緒に空間に避難する「同伴避難」はできない。地震は突然のため難しいが、台風の際は事前に準備ができる。一緒に避難したい時は被害を受けない地域の親戚の家やホテルに事前に避難するのも 1 つの方

	法。 ■防災についての心配なこと 【以下、委員からの意見(抜粋)】 ・引っ越してきたので今のところの近所とは全くつながりがない。保育園でも感染予防でほとんど話さない。何かあったときに助けてもらえるのか不安。 ・自分は日本語を話せるが、外国人だからというので、近所の人との関係性を築くことに気が引けている。自分も含めて外国人住民は、近所付き合いをしたいけど、日本語ができないから声をかけられないと悩んでいる人も多い。 ・私の地域でも避難訓練があり、出席をと言われるが、開催時間が昼間なので仕事などでなかなか出られない。会議や訓練に出られないことで、組織があるのは知っていても、災害時にどう動くのかわからない人が多いのではないかと。 ■防災について自分が取り組んでいることなど 【以下、委員からの意見(抜粋)】 ・元々近所と交流が無かったが、ある日隣人が家に来て、何かあったら夜中でも声をかけてと言ってくれた。それを見た別の隣人が、うちも助けるよと言ってくれて、それから近所で助け合うことができています。 ・市外から越してきて最初は孤立していたが、「車かっこいいですね」と声をかけられたことをきっかけに、最近は近所の人との交流が増えてきた。 ・数日前に消防の訓練に初めて参加したが、煙の怖さを思い知った。実際に体験するとよくわかる。経験に勝るものはない。
--	--

(2)第2回会議

日 時	2022年12月11日(日)
出席者	委 員 参加者数12名 欠席者数5名 太 田 市 企画政策課:参事 矢羽賢一、課長補佐 川田智、主任 川岸祐仁、主任 和田良 危機管理室:室長 茂木房士、係長代理 河野憲嗣、主任 金子将紀、主事 青山航大 構想日本 コーディネーター:高澤良英(特別研究員) 補助スタッフ:清水真穂(特別研究員)、田部井猛(プロジェクトリーダー)
司 会 進 行	企画政策課:課長補佐 川田智

主 な 議 論	3つのグループに分かれて、防災マップ・避難所マップを見ながら災害リスクの洗い出しを行い、洗い出したリスクや課題の中から1つを選んで、「自助」「共助」「公助」それぞれの視点から何ができるのか、「課題を解決する方法」を話し合っ整理しました。 ■防災マップ・避難所マップから災害リスクを考える 《リスクの抽出・整理》 【以下、各班から挙げられたリスク(抜粋)】 ・高齢者や言葉の通じない外国人の避難をどうしたらいいかわからない ・避難所の詳細がわからない(収容人数、駐車場、防犯、プライバシー対策等) ・災害情報が得にくい(防災無線が聞こえづらい、ラジオが無いのでFM/TARO が聞けない、外国人へどうやって情報を伝達する?) ・外出時に災害にあった時どう行動すればいいかわからない ・避難方法がわからない(車で? 歩きで? どっちが安全?) ・避難をしないとイケないのか判断ができず迷ってしまう ・ハザードマップがわかりにくい(小学生でもわかるようなものにならないか) ・災害時に誰が避難所の鍵を開ける?(周辺住民にどうやって役割を持ってもらうか) ・外国人避難者のストレス対策をどうするか(不慣れな日本での避難所生活への対策) ・外国人住民向けの防災マップなどがどこで見られるのかわからない(HP に掲載されていたり、市の施設に置いてあることが伝わっていない) 《対応策の検討・整理》 【以下、各班が整理した「課題を解決する方法」(抜粋)】 【1班】《リスクや課題:避難方法について》 ➤ 自助としてできること ・市の防災メールに登録する ・防災グッズを用意しておく ➤ 共助としてできること ・日頃から近所付き合いをして、いざという時に声がけできるようにしておく ・高齢者をサポートできるようにしておく ・災害時の役割を地区で決めておく
----------------	---

	【2班】《リスクや課題：防災情報の伝え方・伝わり方》 ➤ 自助としてできること ・興味関心を持って、自分から情報を探しに行く ➤ 共助としてできること ・所属する団体やコミュニティで防災について、リアルさを持って考える ・自らのコミュニティだけでなく、他コミュニティにも防災のことを伝えていく ➤ 公助としてできること ・防災について考える場、対話の場をつくる 【3班】《リスクや課題：避難所について》 ➤ 自助としてできること ・どこに避難するか事前に家族で話し合っておく ➤ 共助としてできること ・隣近所の人と避難所への経路を共有しておく ➤ 公助としてできること ・福祉避難所の設置
--	--

(3)第3回会議

日 時	2023年1月21日(土)								
出席者	<table> <tr> <td>委 員</td><td>参加者数12名 欠席者数5名</td></tr> <tr> <td>太 田 市</td><td>企画政策課：参事 矢羽賢一、課長補佐 川田智、主任 川岸祐仁、主任 和田良 危機管理室：室長 茂木房士、係長代理 河野憲嗣、主任 金子将紀、主事 青山航大</td></tr> <tr> <td>構 想 日 本</td><td>コーディネーター：高澤良英(特別研究員) 補助スタッフ：清水真穂(特別研究員)、田部井猛(プロジェクトリーダー)</td></tr> <tr> <td>ナビゲーター</td><td>植竹香織(ポリシーナッジデザイン合同会社 代表)</td></tr> </table>	委 員	参加者数12名 欠席者数5名	太 田 市	企画政策課：参事 矢羽賢一、課長補佐 川田智、主任 川岸祐仁、主任 和田良 危機管理室：室長 茂木房士、係長代理 河野憲嗣、主任 金子将紀、主事 青山航大	構 想 日 本	コーディネーター：高澤良英(特別研究員) 補助スタッフ：清水真穂(特別研究員)、田部井猛(プロジェクトリーダー)	ナビゲーター	植竹香織(ポリシーナッジデザイン合同会社 代表)
委 員	参加者数12名 欠席者数5名								
太 田 市	企画政策課：参事 矢羽賢一、課長補佐 川田智、主任 川岸祐仁、主任 和田良 危機管理室：室長 茂木房士、係長代理 河野憲嗣、主任 金子将紀、主事 青山航大								
構 想 日 本	コーディネーター：高澤良英(特別研究員) 補助スタッフ：清水真穂(特別研究員)、田部井猛(プロジェクトリーダー)								
ナビゲーター	植竹香織(ポリシーナッジデザイン合同会社 代表)								
司 会 進 行	企画政策課：課長補佐 川田智								
主 な 議 論	少人数のグループに分かれ、第2回会議に引き続き、防災に関する課題と解決策を話し合いをしました。 また、今回は議論に刺激を与える論点提示役(ナビゲーター)として植竹香織さんが参加し、行動科学(ナッジ)を活用した防災行動促進についてアドバイスをいただきました。また、「市民のための防災マニュアル」を市民視点での点検、活用策の検討を少人数グループで話し合い、								

	話し合った案をグループごとに発表し、ナビゲーターからコメントをもらいました。 ■防災に関する課題・解決策の話し合い 【以下、各グループから挙げられた課題や解決策(抜粋)】 ・外国人向けの情報が HP にあっても伝わっていない。外国人が良く集まるお店などにポスターなどで情報の入手方法が貼ってあると伝わるのでは。 ・家に子ども一人の時に被災すると、一人では避難できないが、地域の人が避難させようとしても、見知らぬ人だと難しい。例えば、地域の世話人(交通ボランティアなど)が避難誘導をするというのが日頃からアナウンスされていれば、いざという時に避難させやすいのでは。 ・避難路になっている道の幅が狭く、脇に古いブロック塀や生垣が並んでいるので、災害時にその道で避難できるか心配。地域の人が集まるクリーン作戦の際などに、地域でそういう場所があるのか、市の補助金の活用を紹介するなど確認できたらいいのでは。 ・ペットの避難は公助に頼れないので自助を考えないといけない。 ・小さい子ども連れだと避難所に行きにくく感じてしまう。公設の避難所に行かないでも大丈夫な準備をしておく必要もあると感じる。 ・尾島地区内には洪水時に避難できる避難所が無い。そうしたときにどこへ逃げればいいのか、この地域の場合は 2 階への垂直避難をした方が良いなど、もっと具体的な情報があると良い。 ■「市民のための防災マニュアル」のブラッシュアップ案と活用方法案の話し合い 【以下、各グループから挙げられた案とナビゲーターからのコメント(抜粋)】 《ブラッシュアップ案》 ・家に貼っておけるような簡易版があると良い。 ・車で避難する時の情報が載っていると良い。 ・地域の人が子どもを避難させなければいけない時に、その子をどこに連れていけばいいのかを、あらかじめ家族が書いておけるようなシートがあると良い。 ・地区ごとに見られるような防災マップがあると良いのではないかな。 ・マニュアルの翻訳版が日本語と訳が併記されたものになってい
--	--

	ると、日本語話者に尋ねる時に尋ねやすくなる。 ・全ての言語の翻訳版を用意するのは難しいので、「やさしい日本語」で書かれたマニュアルがあると良い。外国人だけでなく子どもや高齢者にも使いやすくなる。 ・P.14 災害のイラストではなく、写真などリアルなものが載っていると良い。 ・P.27 救命処置は誰が行っても良いと書いてほしい。躊躇する人が少なくなる。 ・「危険なところに近づかない」など、当たり前のことまでは書かなくても良いのではないか。載せる情報の取捨選択が大切と思う。 《活用方法》 ・発災前に家族で読んで計画を立てておく。 ・マニュアルの存在を今回知った。マニュアルのことを知人にも知らせたい。 ・子どもたちにもマニュアルがあることを知らせるために、学校でマニュアルのことを周知したらよいのではないか。 ・被災した際に高校生が避難誘導に来れば子どもたちも安心する。高校生や中学生がもっと防災に関心を持つように、教えていく必要があるのではないか。 《ナビゲーターからのコメント》 ・事前に計画を立てておくと、いざという時に簡単に判断ができる。 ・読むだけでなく家族内でチェックリストみたいな感じで書いていくと、自分ごととして考えておけるのではないか。 ・色分けで視認性を上げるのはアトラクティブな観点。 ・要配慮者が見てすぐにわかるマニュアルだと実効性も高くなる。 ・地域ごとの小さい防災マップがあると、探しやすくイージーになるのでは。 ・外国人の視点から「やさしい日本語」で整備されることで、その結果としてそれ以外の人にも読んでもらえるマニュアルになる。伝わる言葉で書かれていると良い。 ・救命措置について、やった方が良いとわかっている心理的なハードルがある。「誰でもやっていい」と明記されていると行動しやすくなる。 ・写真やアイコンなど何が伝わりやすいのかを考えていくことが大切。
--	---

(4)第4回会議

日 時		2023年3月18日(土)
出席者	委 員	参加者数10名 欠席者数7名
	太 田 市	企画政策課:参事 矢羽賢一、課長補佐 川田智、主任 川岸祐仁、主任 和田良 危機管理室:室長 茂木房士、係長代理 河野憲嗣、主任 金子将紀、主事 青山航大
	構 想 日 本	コーディネーター:高澤良英(特別研究員) 補助スタッフ:清水真穂(特別研究員)、田部井猛(プロジェクトリーダー)
司 会 進 行		企画政策課:課長補佐 川田智
主 な 議 論		第3回会議までの議論と、改善提案シートから作成した“自分ごと化会議2022からの提案書案”を基に話し合いをしました。また、会議を通しての感想を委員と危機管理室職員それぞれから発表しました。 ■提案書案について意見交換 ≪提案書案全体について≫ 【以下、提案書案を読んだ感想(抜粋)】 ・今まで災害について考えていなかった。会議後、災害を意識するようになった。 ・ペットの避難の仕方を考えている人は少ない。ペットショップやドッグカフェなどにポスターを貼るなどして周知すれば良いのではと思った。 ・P.20に子どもも読みやすいマニュアルに、と書いてあってその通りだと思った。子どもが成長する過程で教えられるように学びたい。イラストや動画など見てわかるようなものがあると小さい子にも伝えやすいのではないかなと思った。 ・ペット、子ども、高齢者などそれぞれに心配するところは異なる。同じような境遇の人たちのコミュニティの中で共有していく場があれば良いのではないかな。 ・今年の2月10日に大雪が降り、1時間ほど停電になった。備えが無く寒かった。会議に出たことで、意識を高く持っていたはずだが、何をして良いかわからなかった。 ・地域でのコミュニケーションをもっと持った方が良いと思った。今回参加して、自分で調べたり記事を読むようになった。別の町で防災のビブスを作ったというのがあった。良いものは太田市でも取り入れてほしい。 ・防災マップを活用していくことが必要。誰にでも分かりやすく

	いうのも提案に入っていて良かった。防災マップや防災メールを周りの人に広げていきたい。 ・ブラジル人学校で働いているが、会議に参加していることや会議の内容を職場に報告している。学校内で、訓練の仕方が分からないという話が出た。学校で自主的に訓練をやってもいいのではという話をしたりした。 ・会議に参加して今までやっていた訓練を見る目が変わった。災害に関するアンケートを外国人を対象にやってみるのも良いのではないかと、会議に参加して思うようになった。 ・今までは防災への意識が無かったが、これからは考えを変えていこうと思った。 ≪提案書案 P.6～17「防災の課題と解決する方法」について≫ 【以下、意見(抜粋)】 ・災害が起きた時にすぐ使えるようなポケットサイズの防災マップがあると良い。 ・自分の事を伝えられる子どもなら良いが低学年だと難しい。親の避難場所が分かるようなものを作成しておき、それを見てどこに避難させたらよいか分かるものが平常時に用意できると良いと思う。 ・P.16 に冷蔵庫に情報を書いたカードを入れる話があるが、例えば発達障害の子は苦手なことを伝えられずにパニックになることがある。どういう特性を持っているかわかるものを用意しておくことで、そうした方たちのフォローも取りこぼしが無い。認知症も見ただけではわからない。要配慮者の情報が細かく分かるものが整備されていくと安心だと思う。 ・要支援者向けのバンダナがあると良い。他市でバンダナを配る取り組みを要支援者に対しておこなっている。バンダナを配布していることを周知する必要があるのでは。(⇒危機管理室からの補足情報:太田市では避難所にバンダナが備えてある。また、聴覚障がいを持つ市民へは既にバンダナを配ってある。) ・ペットは好き嫌いがはっきり分かれて対立が起きる。ペットがいる避難所にはいけないという人も出てくると思う。ルール化が難しいと感じる。 ・イオンなどの大型ショッピングセンターの駐車場が有事には避難場所になる等、他にもそういった場所があれば事前に周知があっても良いと思った。 ・P.15 の親子防災手帳の話。子どもが大きくなると母子手帳が重
--	--

要ではなくなる。日中働いていると行政と接点がない。「接点のあるタイミングで」ではなく、保育園や小学校で渡すというような記載の方が良いのでは。

・P.17の日頃からコミュニケーションを取っておくというのはざっくりとしている。クリスマスになると隣近所に挨拶をするので、そこでコミュニケーションを取るなどを書けないだろうか。ただ、コミュニケーションを日頃からとっておくというのは難しい。

・近所に外国人の方が多く住んでいるが、なかなか一緒にになる機会がない。ごみ出しなどルールを伝えているが、やる気があるのかないのかわからない。

・会社で福利厚生の仕事をしている。海外からの実習生もあり、初めての日本生活でルールが分からない人には、会社で研修の時間を設けたり、観光に行ってもらったり、時に通訳を入れて困りごとを聞いたりなど、日本生活になじめるようにサポートしている。地域のイベントなどへの参加を呼び掛けるのも良いのでは。

・30歳までブラジルで過ごし、博士号を取得してから来日した。当時、大宮に行くだけでも迷子になった。あんなに勉強したのに、ここでは読み書きもできない人なんだと感じた。それから長く日本に住んでいるが、様々な理由で日本語を覚えられていない。だが、日本のことを知らないわけではない。働くために来ている外国人が多いのは事実だが、日本で教わったことは周りの人や子どもにも伝えているし、伝わっていると信じている。日本で生活したいからという理由で住んでいる人もいることを知ってほしい。

・公園で孫を遊ばせていたら、外国人の女の子が居た。日本語ができるかわからなくて声をかけるのを躊躇していたが、しっかりした日本語で話しかけて来てくれた。そばに居たその子のお父さんからも日本語でありがとうございましたと言ってもらえた。初めからもっと話をすればよかったと思った。職場の施設の利用者にも外国人の子があり、親御さんは日本語が話せない。日本人側が努力しないとイケないと思う。仲良くできるはずなのにきっかけを掴めていないということもある。子供はすごいと思ったので、見習わないとイケないと思った。

《防災自分ごと化シートについての意見交換》

【以下、意見(抜粋)】

・簡素にまとまっているのは良いと思う。

・通常時にチェックリストをやっておいて紙にプリントアウトしておけば、災害時に電気やネットが無くても見れて良いと思う。

・防災マップは大きくて開くのが大変。サイズが A4 くらいであれば普段も見やすいし、災害時も使いやすい。

《防災マニュアルや自分ごと化シートの活用方法についての意見交換》

【以下、意見(抜粋)】

・マニュアルはもう少し簡単にして大雑把な情報のものを作り、詳しくは別紙でよいのでは。フローチャートは1回使ったらそれっきりになるのではないか。それよりも避難行動のチェックの方が、子供が進学して避難所が変わっても話をするのに使えるのではと思った。

・非常持ち出し袋のチェックをするときに、賞味期限のチェックが必要だと思った。

・防災マニュアルを転入者に配っていると聞いたが、転入した時色々な資料を渡されたので全く記憶がない。配布の仕方を再考しても良いのではないか。

・子どもとの避難の場合、子どもも連れて、持ち物も持ってだと大変で、どちらを優先すればいいかと話をしていた。避難所にどういふ物があるかわかっていれば、準備しやすくなるのではないか。

・P.22に救命訓練を受けておくところがあるが、どこで訓練を受けられるのか、どんな訓練を受ければ良いのかわからない。具体的に書いてあると良い。

・チェックシートに書き込むのがすごく良い。書き込むと分かりやすいし、書くとお年寄りも頭に入ると聞いた。あらかじめ記入しておいて冷蔵庫に貼っておくというのも良いと思う。

■自分ごと化会議2022全体を通しての感想

《委員の感想》

・問題を他人事にせず自分ごと化できたのが良かった。

・これまで海拔0メートル地帯に住んでいて、安全な太田に引っ越して来たので安心していましたが、防災バッグを買ったり色々準備するようになった。この会議へ出てよかった。

・会議に出たことで物の見方が変わった。

・会議に参加して自助の考え方を初めて知った。行政に頼りきりの部分が多くあったと思った。自助や共助をしっかりやっていないといけないと感じた。

・被災したことがないので他人事だったが、会議に出たことで、自分なりに勉強して作戦を立てたいと思うようになった。また、市役

	所が災害に備えてしっかりやっていることを知った。感謝したい。 ・職場の施設でも、災害時にどういうルートで避難するか役所に提出しなければならず、避難経路の話をしたりしていた。災害は起こらないのではという話をしていたところにこの会議があったことで、より意識をするようになった。共有できる場があってよかった。 ・太田は災害がないと思っていた。以前にいた街は水害が多く、ハザードマップを見ながら住む所を決めていたが、やはり太田でも考えないとだめだなと会議に出て思った。 ・多文化共生推進士を務めている。情報を発信するだけでなく、仕掛けを作っていないといけないと会議に出て感じた。 ・今まで防災の意識がなかったが、意識が少し変わった。自分の家の周りに危ない所が無いか確認していきたいと思った。 ・この会議に参加して防災に対する意識が高まった。自分が行動できるようになる機会を与えてもらってよかった。ホームセンターに行ったが防災グッズは高かった。少しずつ揃えていきたい。 ≪危機管理室職員の感想≫ ・自身は東日本大震災の後に多賀城市に派遣され住宅補修の申請受付支援に関わった。補助金申請の受付に泥だらけになった通帳を持って来る人もおり、本当に胸が締め付けられる思いだった。また、令和元年の台風の際には、市民体育館で避難所担当として一晩過ごした。当時は別の部署におり、避難所運営が終わった後に改善点を危機管理室に要望した。今回自分が異動してきた時にはその要望が全て整っていた。防災は幅が広く奥が深い。改めて日頃から勉強深めていきたいという思いで会議を聞いていた。熱心な議論をありがとうございました。 ・普段も区長さんとは話す機会があるが、様々な方の話を聞くこういう機会は重要だと思った。会議を機に自分なりの避難時の行動計画を作ってみた。必要なものは地域や家庭によって異なり、地震や台風、規模や段階によっても必要なものは異なる。防災グッズを買うということを皆さんおっしゃっていたが、100円ショップでも使えるグッズは買える。平常時と兼用できるものを選ぶことで買いやすくなるので、そういった準備も良いと思う。身近な方と共有してほしい。 ・防災グッズを揃えることを考えてくださる意見が多かったので情報提供したい。一時的に避難する時のものと、自宅にずっと帰れない時のものと防災グッズは大きく分けて2種類ある。長い避難生
--	--

	活の際にいつも抱いて寝ていたぬいぐるみが無くてとても悲しかったという話を聞いた。それぞれ自分にとって必要なものは異なるので、家族で話し合いながら必要なものを決めて、不自由ない避難生活を送れるように考えていただければと思う。これからも防災情報を市から発信していくので、ぜひ市民の皆さんからも情報を取りに来ていただいて備えてほしい。 ・市としては情報を伝えたつもりでも、実際には伝わっていないことが多いと感じた。皆さんにきちんと伝わっていくような周知方法を検討していけたらと思う。高校の時、仙台で被災した。駅の天井が落ちてきたり、色々な所から煙が上がっていたのを今も忘れられない。避難所生活も1日したが、行政も被災していて避難している方同士で助け合っていた。こういう所で共助の必要性を感じた。今回この会議が出来て良かったと思っている。
--	---

自分ごと化会議

私に関係ある？ あり！